



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは、図書館担当の伊丸岡です。

図書室から一望する大雪山および十勝岳連峰にも冠雪があり、街路樹の紅葉もそろそろ終盤。

11月、霜月です。もうすぐ後期中間考査ですね。

1日は「寿司の日」、「古典の日」。3日は文化の日。7日は「立冬」、22日は「小雪」、そして「いい夫婦の日」。「11-22」というナンバーを付けたクルマを見かけますが…。



図書館は資料センター

先日、**1年半前の朝日新聞の記事**が必要となって、書庫内を探したら、見つめました! 図書館の機能の一つとして「資料センター」であるということがあります。ただ本を置いて、貸し出せばいいってもんじゃあない。だから、なんでも古くなったら廃棄すればいいってもんじゃあない。前にも書いたように、たとえば、日本語の変遷を知ろうとして、旧版の辞書には載っていたかどうか調べられるように、新しい版が出たからと言っても前の版をすぐ廃棄してはいけないと思います(じつはボクが担当する直前に、そういうことがあって、非常に残念で、困ったことがありました)。ことばものの、統計ものなどは、「変遷」を調べられるように、古いものも取っておく必要があります。ただ、学校図書館ですからスペースにも限りがあるので、どういったものを取っておくか、廃棄・更新していくかのさじ加減とか、利用者の質問・相談に的確に応じてくれるには、やはり図書館学を修めたり、図書館運営の経験を積んだり、調べ物で図書館を活用した経験が豊富だったりした、専任の専門職の常駐が必要だと痛感します。

むかし、図書館の予算が潤沢だった頃は、新聞の「縮刷版」というものを入れていた学校もありました。1カ月分の新聞を縮小して1冊に製本した、分厚いものです。1年分だけでも相当なスペースを取ったものです。でも、何年も前のことを調べたりするのに、まことに重宝しました。(むかしは**分厚い本のことを「電話帳みたい」**とたとえましたが、電話帳なんて、見たことないよね?)

ただ、古新聞もいつまで取っておくかというのも、悩ましい問題です。今回は1年半前の新聞がラッキーなことに、たまたままだ残っていた、ということでした。

オンネ…

先日、士別市の温根別^{おんねべつ}というところに行ってきました。

アイヌ語で「オンネ」というのは「大きな」とか、「年老いた」という意味なんだそうで、道内各地には「オンネ」が付く地名が多数あります。

「士別市温根別^{おんねべつ}」「美深町恩根内^{おんねない}」「足寄町オンネト^{おんねと}」「鶴居村温根内^{おんねない}」「根上市温根沼^{おんねぬ}」「北見市留辺蘂町温根湯^{おんねゆ}」「網走市音根内^{おんねない}」「斜里町遠音別^{おんねべつ}」。字は違う8カ所思いつきましたが、ほかにもまだあると思います。斜里岳のアイヌ語名を「オンネヌプリ」といいます。



▲士別軌道モノコックバス

さて、士別市に出かけたのは、士別軌道というバス会社の持つ、古〜いバスに乗るためでした。昭和57年製(40年経過!)の、モノコックバスというレトロなバスで、峠越えは馬力が弱く、あえぎあえぎという感じで思わず「ガンバレ」と拳を握りしめる感じでした。もちろん今のバスのようなオートマチック車ではなく、運転手さんがクラッチを踏んでギアをアップさせたりダウンさせたり。そしてエンジン音のやかましいこと。ああ、懐かしい!

士別は中学生のとき、サイクリングで訪れたことがあり、非常にきれいな街だなという印象を持っていました。ボクは日本海沿いの、いびつな地形で山坂だらけの魚臭い港町生まれなもので、士別のような平地で基盤の目のような整然とした街並みを、とても美しいと感じたのでした。しかも、自転車がたくさん走っている! 一度住んでみたいと思ったものでした。今回もその美しい印象は変わりませんでした。

道内各地には「オンネ〜」という地名がほかにもたくさんあるようです。本校図書館にもある『角川地名大辞典』で調べられます。都道府県ごとに1冊(北海道だけ2分冊)で計48冊からなる大部です。

『角川日本地名大辞典1 北海道 上巻』

行ってきました…高文連全道図書研究大会

図書館顧問になって3年目。初めての全道大会に行ってきました。去年、一昨年はコロナで中止になっていたためです。今回は帯広市が開催地で、十勝管内の多くの高校が協力して行われたようでした。

開会式に続くオープニングセレモニーは、スライドで十勝の四季折々の美しい風景などが映し出される前で、「十勝合同オーケストラ」が数曲を演奏してくれました。それが、中島みゆき、吉田美和(ドリカム)、松山千春といった十勝ゆかりのミュージシャンの曲でした。映像と曲とが相まって、なんというか、思わず「死んでもいい」というくらい感動しました(このご時世、あまり適切ではない言い方で申し訳ないのですが)。とにかくすばらしかった。楽器持って躍りながら演奏するのもすばらしいけど、映像とオケとがこんなにも感動させてくれるものかと、驚きました。

各校の図書館報の交換があったり、図書館員活動の発表会があったりして、これもとても参考になりました。

分科会では、全14の分科会に分かれての研修。顧問は顧問の研修会があって、生徒の活動は見て歩けなかったんだけど、とてもためになりました。

記念講演会として、**桜木紫乃**さん(北海道在住、直木賞作家)の講演を聴きました。中止になった昨年度の全道大会でも企画されていたもので、楽しみにしていました。

桜木さんの講演は以前にも聴いたことあるんだけど、その時は一人で話をされていた。今回は、釧路のフリーアナウンサーがMCを務めながら、桜木さんとの「**トークライブ**」という形で行われました。これがまたなんと楽しいことか!桜木さんはぼそぼそと面白いこと、大事なことを話すんだけど、MCさんが上手に話を引き出す、話題を回す、盛り上げる。いくつか心に残ったことを紹介しましょう。

「奇跡と思っていることでも実は『必然』なんです。アンテナ立てておかないと、気づけません。」

「小説って、予習、復習なんです。好きだ、楽しいと思って読んでいる小説からは何も得るものはない。」

「年取ってからの方が、悩んだりしていた若い頃より100倍楽しい。」

「『元気もらう』『勇気もらう』という言い方キライ。『元気が出た』でいいじゃない。」

「自分で自分をジャッジしない。」

「辻仁成は言っていた。『ミュージシャンの学校はない。作家になる学校はない。』と。」(辻仁成は作家でもあり、ミュージシャンでもある。)

「編集者から『あなたの才能は続けてきたことだ。続けない人を私たちは応援できない』と言われた。」

ご自宅の2階の書斎の窓から眺める隣地の公園の風景がお気に入りなんだそうだが、そのベンチには毎日いろんな人が座る。そこに現れた高校生カップルの話も面白かった。

一つの出会いはありました。

当番校の先生として、ある役割に当たっていたらしいのですが、プログラムでボクの名前を見つけて訪ねてくれたのが、なんと、ボクが教員になったその年、初めて国語を教えた子でした。例の、定期考査を半分に縮小印刷された生徒の一人。当時、3年生でしたから、5歳しか変わらない。懐かしかったですねえ。

それにしても帯広は遠い。そして石勝線というのはかくもトンネルが多い路線なんだということを実感。むかし「石勝線トンネル火災事故」というのがありました。こんな長いトンネル続きのところで列車が火災になったら大変だろうなと思いながら乗っていました。北海道新幹線の長万部～小樽～札幌間もトンネルが多いらしいですね。

ちなみに、**辻仁成**というのは、函館西高出身で、『**海峡の光**』で芥川賞を取っています。函館の刑務所が舞台。刑務官になった主人公と、そこに入所してきたかつての同級生。面白いです。本校にもあります。オススメです。ほかにも、エッセイ『**母なる風と父なる時化と**』、小説『**そこに僕はいた**』なども函館が舞台で、面白いです。『母なる～』の方は絶版のようですが。



『**海峡の光**』 **辻仁成** 新潮社 ⇒単行本。作家別の棚「つ」

なお、函館を舞台とする小説といえば、近年、**佐藤泰志**が注目されています。亡くなってから、その作品群に光が当てられ、映画化もされています(『**海炭市叙景**』、『**そのみにて光り輝く**』)。両作とも、いいお話ですよ。



ス々に・・・

ス々に「硬質な」文体に巡り会いました。**外岡秀俊**^{ほっきこう}『**北帰行**』です(小林旭ではありません)。前から読みたいと思っていたのですがすでに絶版。中古で手に入れようと思っていたら、**旅先でふらりと立ち寄った本屋に、文庫版となった『北帰行』が並んでいるではありませんか!**ことしの9月、そう、これを入手したわずか10日ほど前に刊行されたばかりだったのです。

さっそく読みました。使われている漢字、漢語がやたらと難しい。古語、死語も頻出。言い回しも古めかしく、一文が長い。まあ、読みにくいのである。なんか、東大の先生が書いた新書にありがちな文体だなあ、なんて思っていたら、この作者、20代の初め、東大法学部在学中に執筆したものらしい。若干、大江健三郎の文体を思わせる感なきにしもあらずだったが、大江も東大卒。なにか、「東大文体」なるものでもありそうである。

たとえば、こんな文。

「当時の私たちにとって東京という言葉は、一種独特の響きをもっていたのだが、これはからりと乾いた憧れというばかりでなく、何か敵愾心のようなものを搔き立てずにはおかない質の響きだった。一言でいうと、いい意味でも悪い意味でも、都鄙^{とひ}の差異を鋭敏に感じ取って誇張するところがあって、そのわざとらしさをおもしろがっている気味さえ感じられた。」(P.98より)

以上、「2文」からなっていて、それぞれ89字、73字です。小論文なんかでは、一文60字以内、と指導されることが多いと思いますが、長い。

そのほかにも「瀧つ瀬」「忙しい」「切齒扼腕」「そびら」・・・すべて読みと意味を答えられたら大したものです。

でも、ロールケーキみたいな文体の本ばかり読んでいると、たまにこんなスルメみたいな文体も刺激があって良かったです。内容を一言でいうと、**石川啄木**の北帰行の旅をなぞって主人公も北へ向かって旅をする、といった感じだろうか。随所に啄木の短歌が挿入されています。

みなさんは、旭川駅の中に、啄木の座像があるのを知っていますか?啄木が汽車の座席に座っているのですが、その隣に座れるんです。啄木が**旭川に1泊し、旭川で詠んだ短歌**が『一握の砂』に収められているのを知っていますか?

今夜こそ思ふ存分泣いてみむと
泊まりし宿屋の
茶のぬるさかな



▲旭川駅物産センター内
石川啄木座像

『一握の砂』 石川啄木 ほるぷ社

⇒単行本。全集の棚

平安女子の楽しい!生活

3年生の古典では、『蜻蛉日記』を勉強していますが、1,2年生はどんな古典を勉強しているかな?

平安時代の女性の生活のさまざまをわかりやすく書いた本です。一般庶民の生活ではなく、高貴な身分のケースですが、高校の古典を勉強する上では、ためになる入門書です。ファッション、恋、歌、仕事、結婚生活等々、堅苦しくなく、現代の若者にもわかりやすく解説しています。あんまりこうした情報はネット上でもまとまって知ることは難しく、教科書で解ることも限られていますから、こうした「本」がお勧めです。

なお、この本には、「男子」バージョンもあります。どうぞ。

『平安女子の楽しい!生活』 川村裕子 岩波ジュニア新書

⇒新書の棚

『平安男子の元気な!生活』 川村裕子 岩波ジュニア新書

⇒新書の棚

明治時代の庶民の生活は・・・?

江戸、徳川幕府時代から明治維新を経て、庶民の生活はどのように変わったのだろうか?

昨年、NHK大河ドラマで、日本近代資本主義の父とよばれる**渋沢栄一**を主役に放映されていましたが、幕末から明治初期までに中央で活躍した人です。一般庶民の生活はどのようなものだったのでしょうか?

ことは、日本に鉄道が敷かれて150年という節目の年とのこと。明治時代には、日清・日露戦争があって世界の大国を相手に二度も勝ち、産業も経済も大きく飛躍した時代だと教科書では習いますが、いったい、庶民はどんな思いでどういうくらしを送っていたのか、わかりやすく知ることができる本をお勧めします。

鵜外や漱石を読んでも、リアルな庶民のくらしを知るには、少々難があります。文豪の作品はやはりどこか知的特権階級のくらしが反映されているものと思います(田山花袋の『田舎教師』はボク^しの愛読書ですが、この作品には当時の市井^{しせい}の庶民の姿が描かれていると思います)。

『生きづらい明治社会 不安と競争の時代』 松沢裕作 岩波ジュニア新書

⇒新書の棚

～ ことばつれづれ ～

ゆるくない…

「ゆるくない」とはよくできた言葉だと思う。他にも「いずい」「あずましい」「…さる」「あめる」「こわい」など、北海道方言もなかなか豊かである。

さて、全道大会出張の3日間の選択以外の授業を、おおかた振り替えていただきました。すると、出張の前後の「ゆるくない」こと!最多で1日6時間、授業と講習をやった日も!途中密かにドリンク剤を飲んだりしながら乗り切りました。ス々だなあ、こんなの。小学校の先生が1日5時間分の授業をお休みするからと言って、別の日に1日10時間の授業をすることはありませんが、高校ではあるんですね。1週間分の授業を2日間で行う(3日間出張の場合)ということはあるんです。よくもまあ、若くもないのに。

時間割係の先生方にもたいへんご苦勞をおかけしました。

『北海道海岸方言・岩内方言辞典』 見野久幸 響文社

⇒北海道関連本の棚に

忙しい…

上記、外岡秀俊の『北帰行』のところにも書きましたが、「忙しい」は読めましたか?「いそがしい」ではありません。「せわしない」です。長い間、ボクはこれを、北海道方言だと思っていましたが、『日葡辞書』にも載せられた、古くからある日本語なんですね。

ところで「忙しい」とは、「せわしい」のか、「せわしくない」のか?

語尾の「ない」は、大きく次の3パターンに分けられるのだそう。

A 形容詞(補助形容詞も含む)が付いたものか(=「なし」の意になる。「ある」の反対)

B 接尾語「ない」が付いたものか(=「なし」の意ではないので、反対の意で「ある」とは言えない語。「程度が甚だしい」意)

C 助動詞「ない」が付いたもの(=打消の意だから、「ぬ」に置き換えられる)

D 語源不明なもの

[語例]

A もったいない とんでもない だらしない 情けない 申し訳ない 大人げない 仕方ない

B おぼつかない かたじけない ぎこちない せつない せわしない はしたない

C 知らない(知らぬ) くだらない(くだらぬ) つまらない(つまらぬ)

D 危ない 汚い 少ない

これについては、『明鏡』国語辞典が便利。「ない」のコラムが1ページ全部を使ってまとめられています。以前にも書いたが、「使い方」を知るには『明鏡』、ユニークさを求めるなら『新明解』、簡潔さでは『三国』etc,,

『明鏡国語辞典』 北原保雄編 大修館書店

⇒辞典類の棚

印(はんこ)と卒業証書の話



3月30日の読売新聞(オンライン)によると、兵庫県尼崎市教育委員会は29日、市立小学校1校が今春までの4年間、**他校の公印を誤って印刷した卒業証書**を渡していたと発表した。印刷データを取り違えたとみられ、今春の卒業生がミスを見つけるまで誰も気づかなかったという。小学校は今後、4年間の卒業生計553人の家庭を訪問して謝罪し、正しく印刷された卒業証書と取り換える、とのこと。

さて、4年間も気づかなかった先生方の中には一人も印に彫られている字を読んだ人(読めた人)がいなかったんですね。それを**今春の卒業児童が読んで、間違いに気づいた**。たいしたもんです。書体は篆書体だったそうですが、証書の制作過程でのミスが原因らしい。

ところで、**道立高校**の「公印」は「横書き」なんですね。みなさんがもらう卒業証書にも捺されるはずで、**横書きに学校名が彫られています**。みなさんの身分証明書に捺されているのがそうです。たしかに現在「公文書」の類は横書きで、これに捺す印の印文も横書きと言えば合理性があるようですが、実は文化や伝統を全く無視したものだと言えそうです。



▲これは縦書き

印というのは古来、重要な文書の封じ目や証文としての信用度を証明するものとして作られ、押捺されてきたもの。印の文面、印文はその枠内で完結した世界。「方寸の世界」とも言われます。だから、中国伝来の漢文と同様、伝統的に縦書きに記されてきたものです。これはたとえ公文書が横書きであっても、そこに捺された印は、印の中だけの文章であるので、そこが縦書きであってもなんの違和感もない。

ところが、逆に表彰状や感謝状、卒業証書などが伝統的な筆文字で堂々と縦書きに書かれているのに、そこに捺された印が横書きで、ものすごく不調和で、違和感があって、華奢で軽薄で稚拙な感じがぬぐえせん。伝統も文化もぶちこわしです。

ボクの**大学**の卒業証書の印はもちろん縦書きです。司書教諭の資格証明書に捺された**文部省**の印も縦書きに彫られています。教員免許状に捺された**東京都教育委員会**も縦書きです。今回の尼崎の小学生が見つけた公印は縦書きだったのか横書きだったのかわかりませんが。

卒業したことを証します。

ついでにもう一つ。道立学校の「卒業証書」の文、「卒業したことを証します」の後に、句点「。」が付けられることになっています。どういうことかという、「**卒業したことを証します。**」です。「学則」という、道のきまりに書かれているものです。でも、みなさん。筆字で書かれた賞状の類いに「。」が付いた文面って、見たことありますか？賞状などの書き方の参考書、ネット上の情報、どれを見ても「。」なんか付けないことになっています。本校の1階廊下に数多く飾られている賞状類には、みな「。」など付いていませんね。

ボクは教育委員会におかしいと指摘したところ、「卒業証書は賞状ではない」と、けんもほろろの回答が返って来ました。おっしゃるとおりです。卒業証書は賞状ではない、だから賞状の書き方の慣例・伝統に従う必要はない。おっしゃるとおりです。それに、役人は、「きまり」を墨守することが仕事で、いちいち現場からの指摘によって「上」の方針を変えたりしないのが使命です。今後も、「モーニング娘。」や「ほっちゃん。」のように、「。」の付いた卒業証書を発行し続けるんだろうと思います、北海道では。

だれか神戸の小学生のように、指摘してくれないかなあ。児童・生徒が指摘すれば話題にはなると思うんだけど。

新聞切抜き読み

ここに取り上げた記事は、図書館前掲示板に掲示中です！

館内には3紙の新聞があります。新聞を読む習慣を！

**▼「同時流行 高まる懸念」 朝日新聞 10/13**

今冬は季節性**インフルエンザ**が本格流行する可能性があるそう。新型コロナウイルスの「**第8波**」との**同時流行**も懸念されるとのこと。お気をつけください。

▼「『宅浪』配信 応援に応えたくて 当世浪人事情」 朝日新聞 10/16

熊本県の1浪生が、「宅浪」を選択し、浪人生活をネタにしたユーチューブチャンネルを開設したという記事。「現役中はサッカー、ゲームに熱中し、学年で下から3番目」「目立ちたがり屋であった」「大学生ユーチューバーによる受験に使った参考書紹介動画を頻繁に見ていた」ことなどから、始めたという。応援メッセージが多いが、「時間の無駄」「勉強に専念しろ」というアンチコメントも届くという。[連載記事をまとめて掲示します]

▼「一強独裁を生む『中華帝国』の歴史 京都府立大教授に聞く」 朝日新聞 10/28

中国共産党大会が開かれ、習近平氏が異例の3期目の最高指導者になったという報道がありました。隣国にして、古代から日本の国家、言語、文化形成など、様々な分野に影響をもたらしてきた中国ですが、今後どのような国になって行くのか、歴史に学ぶ視点で語られています。

▼「石北線全通90周年 乗客減が影」 朝日新聞 10/12

旭川市が利用促進へ催しを開催したり、複数乗車に補助も出すという。「2次交通」問題って、わかります？

▼「心に傷 訓練で ネットで 元自衛官の性被害 隊員4人謝罪」 朝日新聞 10/18

ことし大きなニュースとなっていました。元自衛官の女性が実名で、在職中の性被害を告発。ところが、ネット上での誹謗中傷も相次いだという。ようやく加害者4名が直接謝罪に至ったというが・・・。

▼「コロナ禍 息苦しい子 マスク表情見えずトラブル■休む罪悪感消えた」 朝日新聞 10/28

不登校の小中学生が2021年度に急増したという。

コロナによるトラブルで不登校になったり、休校や分散登校で「学校に毎日通わなくてもいい」という経験から、休むことに罪悪感を持たなくなったと分析。

旅 先でふらりと立ち寄った本屋で偶然欲しかった本を手に入れた、ということを書きましたが、じつは先日、別の体験もしています。旅の途中で読みかけの文庫本を読了してしまっただけで、さあ、帰り道に読む本がない、困った。駅前をうろつくも、本屋はない。やっと見つけた本屋らしき店には大半が文具で、文庫本が10冊(なんと、たったの10冊ですよ!)並べてあったけど、いま、読みたい本ではない。そこで思いついたのがコンビニ。ところが文庫本を置いているコンビニがまた近くにはない!やみくもに歩きましたねえ、知らない街を・・・。

＊ ＊ リクエストを ＊ ＊

後期の購入図書リクエストを募ります。できれば冬休みに入る前に貸出ができるよう、リクエストの集約をしていきたいと思います。

ほんとうはもっとネタはためてあるのですが、如何せん猫の助手も借りたいほど忙しく、これが精一杯。

そうだ! 図書館へ行こう! そうだ! 本を読もう!!

三浦綾子記念文学館、井上靖記念館、旭川文学館にも行ってみよう!

三浦綾子生誕100年。道内関連の文学作品も読んでみよう!

(文責 伊丸岡圭一)